

平成 28 年 11 月 14 日

## 戦略室活動報告

企画部戦略室

## 1. 中間評価結果の報告

前回の協議会で承認された評価方法で実施した。

評価内容は下記の項目および評価に至るコメント。評価者は3名（戦略室・部会・推進室）

## 1. 進捗状況

S：計画よりめざましい進捗が認められる。

A：おおむね計画通りの進捗状況である。

B：計画よりやや遅れている。

C：計画より遅れており、指導や計画の見直しが必要

## 2. 研究成果

S：重要な成果があがっている、もしくは期待できる。

A：計画通りの成果があがっている、もしくは期待できる。

B：計画通りの成果をあげるにはもう少し努力が必要と判断される。

C：成果が上がっていない、もしくは、期待できない。

## 3. 発展性

S：今後の発展が大いに期待できる。

A：今後の発展が期待できる。

B：今後の発展がありうる。

C：今後の発展が期待できない。

● 中間評価の結果については、今後の研究推進に役立てていただくため、戦略室から課題担当者に送付し、各計画推進部会長には部会の課題全ての評価結果を送付した。

ここでは、S4点、A3点、B2点、C1点としてその合計点の分布を示す。

海溝型地震計画推進部会（17 課題）

合計点 31・30・29・29・29・27・26・26・25・25・25・25・24・23・21・21・18

平均 25.53

内陸地震計画推進部会（14 課題）

合計点 30・30・30・30・28・28・27・25・24・23・23・22・22・22

平均 26.00

火山計画推進部会（20 課題）

合計点 29・28・28・28・28・28・27・27・27・26・26・26・25・25・24・24・23・  
22・22・19

平均 25.60

地震先行現象・活動予測計画推進部会（8 課題）

合計点 28・27・27・27・26・25・24・22

平均 25.75

事前予測・即時予測計画推進部会（8 課題）

合計点 31・29・29・27・27・27・26・23

平均 27.38

地震・火山災害計画推進部会（9 課題）

合計点 29・27・27・27・26・25・24・24・18

平均 25.22

史料・考古計画推進部会（6 課題）

合計点 26・26・25・24・24・23

平均 24.67

データベース・データ流通計画推進部会（4 課題）

合計点 26・25・24・19

平均 23.50

● 上記中間評価を受け、戦略室では各課題の評価結果とコメントを総合的に判断し、S 評価（研究成果が高く評価され、今後の成果も期待される課題）、および C 評価（研究の進捗状況についてヒヤリングを実施し、今後の研究計画方針を考える必要のある課題）を選定した。

S 評価の下記 7 課題について、課題担当者に対し、来年度以降多少の予算の増額により研究の進展が見込まれる場合には追加申請書の提出をお願いした。ただし、来年度以降の予算は非常に流動的で、全体予算が減額される可能性もあることから、本追加申請については一旦、戦略室預かりとし、来年度の全体予算が決まった時点で判断することとした。

1005 津波浸水域の即時予測手法開発のための研究

1203 地殻応答による断層への応力載荷過程の解明と予測

1204 地震断層すべり物理モデルの構築

1510 相似地震再来特性の理解に基づく地殻活動モニタリング手法の構築

1907 横ずれ型の内陸地震発生の物理モデルの構築

1910 短スパン伸縮計等を活用した西南日本における短期的 SSE の観測解析手法の高度化

2201 地震・火山相互作用下の内陸地震・火山噴火発生場解明およびモデル化の研究

C 評価の課題については課題担当者とのヒヤリングを実施し、中間評価で指摘された問題点・研究進捗状況を議論し、今後の研究推進についての方向性を見出した。各課題のヒヤリングの要点をまとめ、戦略室と課題担当者で認識を共有した。

● 部会自己評価と戦略室への要望については、各計画推進部会に依頼し、現在結果が戦略室に集まってきている段階です。

## 2. 企画部経費を利用した熊本地震緊急研究への対応について

関連の計画推進部会（史料考古・内陸・事前予測即時予測・災害）に対し、現在の課題への追加申請の形で申請書の作成をお願いした。申請書について戦略室で議論し、下記の課題について熊本地震対応追加申請を承認した。

課題 2601「文献史料による歴史地震に関する情報の収集とデータベースの構築・公開」への追加研究として、「前近代の熊本地域地震史料の調査研究および熊本地震による被災資料の調査・保全」

課題 1812「強震動によって発生する地すべり現象の発生ポテンシャル評価と事前予測手法の高度化」への追加研究として、「将来の地震時地すべり発生ポテンシャル評価のために、熊本地震による地すべりの性状を、明らかにする研究」

課題 2702「過去の災害事例に基づく減災科学に係る研究」への追加研究として「中山間地域、地方都市、政令市を含む広範囲な地域に被害が発生した熊本地震を事例として、地域安全の確保を目的とした地震災害の事例研究」

課題 2201「地震・火山相互作用下の内陸地震・火山噴火発生場解明およびモデル化の研究」への追加研究として「地震発生域の詳細な構造と本震震源断層モデルや余震活動との関係を明らかにするとともに、阿蘇カルデラや別府島原地溝等の大規模構造との関係を明らかにする研究」

（さらに、鳥取地震対応として課題 2001（鳥取大学）への追加研究を検討中。）

## 3. シンポジュームの開催

部会間連携の促進や社会との情報共有を主な目的として下記シンポジュームを開催した。

### 1)「熊本地震シンポジューム」(別紙 プログラム)

熊本地震の災害の特徴や、過去の地震災害、長期評価、事前即時予測、地殻活動、復旧復興、災害情報など幅の広い情報交換や議論を行い、地震災害の軽減に向けた研究の展望について検討を行います。また、最新の研究成果を社会にお知らせすることで、将来の地震災害の軽減に向けた社会環境の醸成を目指します。

日時： 平成 28 年 10 月 26 日（水） 9:45～16:45

場所： 熊本市国際交流会館 6F ホール（熊本市中央区花畑町 4-18）

主催： 東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会

共催： 熊本大学大学院自然科学研究科附属減災型社会研究教育センター

参加人数 97 名

## 4. 次期の研究計画について

戦略室では、次期研究計画の骨子を議論するため、ワーキンググループを立ち上げることが決定された。次期研究計画を担う研究者による、火山研究計画検討 WG と地震研究計画検討 WG を立ち上げることになった。次期計画を担う戦略室員も各 WG に入り戦略室と情報を共有する。

今後、各 WG のメンバーを決定する際、協議会の皆様のご協力をお願いいたします。

## あの地震は何だったのか…

## 「地域の皆さん」と研究者が共に考える「きっかけ」を

平成28年熊本地震は甚大な災害を引き起こしました。震源域には日奈久断層と布田川断層が知られ、長期評価や予測震度推定が行われていました。震度7が2回観測され、広域的に地震活動が活発化するなど、災害対策や活動推移予測で検討すべき課題も浮き彫りになっています。今回の災害の特徴や、過去の地震災害、長期評価、事前即時予測、地殻活動、復旧復興、災害情報など幅の広い情報交換や議論を行い、地震災害の軽減に向けた研究の展望について検討を行います。また、最新の研究成果を社会にお知らせすることで、将来の地震災害の軽減に向けた社会環境の醸成を目指します。本年4月に発生した熊本地震において「これまでに実施してきた研究活動と成果」を被災地域と共有することで、今後の災害・防災対策を共に考えます。

～災害の軽減に貢献するための  
地震火山観測研究計画における研究活動～

▶とき

平成28年10月26日(水)

▶ところ

熊本市国際交流会館 6Fホール

〒860-0806 熊本市中央区花畑町4番18号  
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783

## 第1部

研究報告(研究者・研究機関向け) [9:50~12:30]

開場 [9:30]

[9:50~9:55]

はじめに 清水洋(九州大学理学研究院)

## 1 九州中部の歴史地震(コンビーナ:黒石裕樹)

[9:55~10:10]

前近代における九州中部の地震

鳥津亮二(八代市立博物館未来の森ミュージアム)

[10:10~10:25]

公文書にみる1889年熊本地震

中村元(新潟大学人文社会・教育科学系)

2 長期評価・強震動予測・被害予測・即時予測  
(コンビーナ:関口春子)

[10:25~10:40]

布田川・日奈久断層帯の長期評価

佐竹健治(東京大学地震研究所)

[10:40~10:55]

布田川・日奈久断層帯の地震動予測と被害予測

佐伯琢磨(防災科学技術研究所)

[10:55~11:05]

熊本地震震源断層のGNSSによる即時推定

川元智司(国土地理院)

[11:05~11:20]

熊本地震による斜面崩壊

千木良雅弘(京都大学防災研究所)

— 休憩 [11:20~11:30] —

## 3 地殻活動(コンビーナ:高橋浩晃)

[11:30~11:45]

九州中部の地殻変動とテクトニクス

中尾茂(鹿児島大学理工学研究領域)

[11:45~12:00]

九州の地殻構造と地震活動

相澤広記(九州大学理学研究院)

[12:00~12:15]

熊本地震の火山への影響評価

藤田英輔(防災科学技術研究所)

[12:15~12:30]

総合討論

— 昼休み [12:30~13:30] —

※第一部は研究者向け  
内容ですが、一般の  
方も参加できます。

## 第2部

研究・活動報告(行政・一般向け) [13:30~16:45]

司会: 兵庫県立大学環境人間学部

准教授・災害部会長 木村玲欧

[13:30~13:35]

はじめに 地震・火山噴火予知研究協議会議長

平原和郎(京都大学大学院理学研究科 教授)

## 1 理学的見地から

[13:35~13:55]

熊本地震が引き起こされた背景

九州大学 大学院理学研究院 附属地震火山観測研究センター

センター長・教授 清水洋

[13:55~14:15]

熊本地震発災後の観測活動～臨時観測から知る余震活動

九州大学 大学院理学研究院 附属 地震火山観測研究センター

(島原) 准教授 松本聡

[14:15~14:35]

熊本地震による地表の変状

熊本大学大学院 自然科学研究科

附属減災型社会システム実践研究教育センター (IRESC)

准教授 鳥井真之

— 休憩・時間調整 10分 [14:35~14:45] —

## 2 災害対応の見地から(研究組織・機関)

[14:45~15:05]

火山研究センターの被害と活動～地域資源としての研究施設の役割～

京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設 火山研究センター

(阿蘇) 教授 大倉敬宏

[15:05~15:25]

熊本被災史料レスキュー活動について

熊本大学文学部、熊本史料救出ネットワーク 教授 稲葉継陽

## 3 災害対応の見地から(行政・公共機関)

[15:25~15:45]

ライフライン復旧への取り組み～通信基盤の早期復旧を目指して～

NTT 西日本熊本支店 設備部長 山本清

[15:45~16:05]

災害報道への取り組み～地域のよりよい災害対応の実現を目指して～

熊本日日新聞 熊本総局次長 小野由起子

[16:05~16:25]

被災者生活再建への取り組み～熊本県生活再建支援システムの実現～

新潟大学危機管理本部危機管理室 教授 田村圭子

[16:25~16:35]

総合討論

[16:40~16:45]

おわりに 谷岡勇市郎(地震・火山予知研究協議会 研究戦略室長、

北海道大学教授)

— [16:45ころ] 終了予定 —

入場無料

事前申し込みは特に行いません。第1部・第2部とも  
広く皆様のご来場をお待ちしています。

お問い合わせ

東京大学地震研究所 地震・火山噴火予知協議会

http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/

主催: 東京大学地震研究所 地震・火山噴火予知協議会

共催: 熊本大学 減災型社会システム実践研究教育センター